校長研修だより１０７

困らせる生徒は，困っている

２０２３・６・１　重枝 一郎

ある自治体の教育委員会の指導主事と話した。その主事が言うには「私の管轄では，昨年度，病休に入る先生がとても増えました。事情は様々なのですが，独身の若手教師が目立ちます。その理由は，職場の人間関係や生徒指導，保護者対応とかではなく，コロナ禍で例年と違うリズムで業務が複数またがったり，調整に追われたり，事務的な業務の煩雑さで，なんとなく勤労意欲が低下しているようです。一つ一つはたいしたことではないのですが，日頃の小さな困難がいくつも積み重なり，大きな障壁に見えてくるのかもしれません」と話していた。

この話は，どの学校でも当てはまる。学校教育の変化，短い夏休みによるリフレッシュ不足，感染症対策によるコミュニケーションの制限などで，誰もがストレス下におかれた。そのような期間，本校の先生方は，「しなやかさ（人間性）」と「たくましさ（判断力）」を併せ持っていたから，なんとか無事に乗り切ることができたと思う。そしてあらためて誰もがコミュニケーションのありがたさを知ったと思う。

今現在，先生方は当時を振り返ることもなく，日常に追われているのかもしれない。でも振り返ると，コロナ禍で一番苦しかったのは，やはりコミュニケーションの不足だったと思う。それは私たち教師だけではない。生徒たちも同じである。ストレスのストレスケアの癒しは，コミュニケーションしかない。雑談はもちろん，直接的に力を貸したり，解決志向でコミュニケーションをとったりすることが大事になる。

また，生徒はどうだったのかを振り返りたい。私は，その当時でも，元気な，包容力のある先生たちのおかげで，多くの生徒から学校生活が楽しかったと聞く。おそらくそれは，先生たちが，いつも生徒に対して，肯定的なフィードバックをしてくれて，ポジティブな学校文化を醸成してくれているからだと思う。

そして，先生方も自身を振り返ると，頑張った自分がいるのではないかと思う。**でも今現在，当たり前のように，先生たちを困らせる生徒もいると思う。**それでも先生たちは粘り強く関わっていくだろう。教師とはそういう生き物である。

それでもつらくなる時はある。そんな時は，コミュニケーションの力のありがたさを私たちは経験したので，今はありがたく密なコミュニケーションをしていけばいい。それでもつらいなら，マインドを次のようにセットしてみる。**「困らせる生徒は，困っている」**と。このマインドセットは間違いない。だから，やはり粘り強く関わるというやり方は正解であり，唯一である。生徒が，その関わりの中で得た，少しの成長に，私たち教師は大きな喜びを感じ，そして，その喜びを同僚，保護者と共有していくことが，教師の醍醐味である。